

1 調査経過

今回の調査は、興福寺中室・経蔵・鐘楼を対象とした。

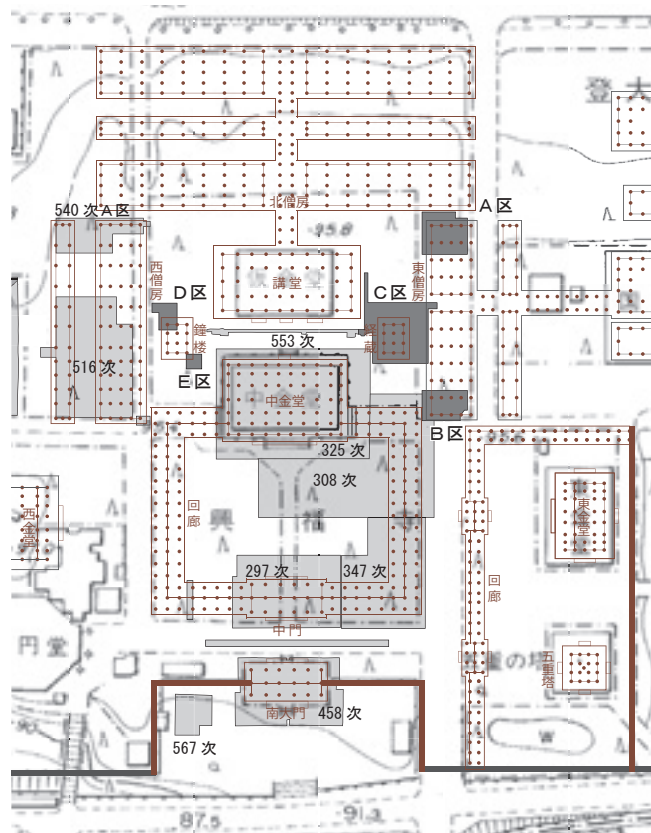
興福寺では「興福寺境内整備基本構想」（1998年）に基づき、寺観の復元・整備が進められている。これにともない、奈良文化財研究所（以下、奈文研）では、1998年以来、中金堂院、南大門、北円堂院、西室（西僧房）などの発掘調査を継続しておこなっている。この事業の一環として、2015年度には中室（東僧房）、経蔵、および鐘楼を対象として調査を実施した。本報告は、その概要報告である。

調査区は、5ヵ所に設定した。これらをA・B・C・D・E区と呼称する（第1図）。A区は中室大房北端部202㎡、B区は同南端部148.5㎡、C区は経蔵406㎡、D区は鐘楼西北部54㎡、E区は同東南部25㎡である。調査面積は計835.5㎡で、うちB区の29.5㎡は1999年度の第308次調査区と重複する。A・B区は中室大房の規模の確認、C区は経蔵の全容解明、D・E区は鐘楼の規模の確認を主な調査目的とした。また、調査開始後、中室北面の基壇外装の全容を確認するためA区を北に、経蔵北方で検出した石組溝と西方で検出した玉石敷の全容を確認するためC区を北と西に、鐘楼北方で検出した石組溝の全容を確認するためD区を北に、それぞれ拡張した。上記の面積は、拡張後のものである。

調査は2015年10月2日より開始し、2016年1月15日に終了した。調査の結果、中室・経蔵の創建当初の建物規模とその後の再建の様相、鐘楼の室町時代以降の建物規模、および経蔵・鐘楼の基壇周囲の様相などがあきらかとなった。（桑田訓也）

第1表 調査経過

2015年	
8月6日	縄張り
9月29日	現地協議
10月2日	重機掘削開始（～10月16日）
10月5日	手掘り調査開始
10月14日	鐘楼（D区）写真撮影
10月23日	経蔵（C区）写真撮影
10月29日	中室（A・B区）写真撮影
11月6日	写真撮影（D・C区）
11月9日	C区拡張
11月10日	D区拡張・E区重機掘削開始
11月13日	写真撮影（C区）、A区拡張
12月2日	写真撮影（A・B・C・D区）
12月4日	現場検討会
12月10日	写真撮影（ハイライダー、全調査区）
12月16日	石材鑑定
12月18日	記者発表
12月20日	現地見学会（来場者1,200名）
12月22日	写真撮影（C区）
12月25日	写真撮影（E区）
2016年	
1月6日	中室未調査部分（A区とB区の間）の地中レーダー探査
1月7日	写真撮影（C区基壇東側下層瓦溜）、羽目石加工痕採拓（A・C区）
1月14日	A・B区砂撒き完了
1月15日	C・D・E区砂撒き完了、調査終了



第1図 第559次発掘調査位置図 1：2500